

令和7年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

管理機関名(山形県)

1. 取組についての評価

・山形県魅力ある県立高校づくり推進事業「フューチャープロジェクト」において産業教育連携協議会(コンソーシアム)とマイスター・ハイスクール普及促進事業を連携させる中で、地域産学連携コーディネーターの活用に意を配した点は評価できる。特に、産学連携を質量ともに充実させるため、学校の閉鎖性による地域の産業界との連携の難しさを乗り越え、産業教育連携協議会を形式的な「シャンシャン会議」に終わらせないようにしたことは注目に値する。このように苦労して築いた産学連携のプラットフォームが上手く機能したことが、県内各産業系高校において、学科間の連携強化等フューチャープロジェクトの充実した取組に繋がったと史料される。

・本取組は、特定の指定校を設けず、県内の職業に関する学科が共通して参画する枠組みとしたことで、学校間の立場や条件に左右されない横断的な連携を実現した点が高く評価できる。フューチャープロジェクトにおいて、産学連携コーディネーターの配置やシンポジウムの開催を通じ、専門高校の実践事例や課題を継続的に共有・協議する機会が確保され、県全体としての取組の可視化と質の向上につながった。また、事業の趣旨を踏まえつつ、各学校が自校の実情や地域特性に応じた取組を主体的に展開したことにより、画一的な事業運営に陥ることなく、実効性の高い実践が各地で生み出された点は大きな成果である。特に村山産業高校では、グローバル展開を見据えた農業教育の充実、商店街の空き店舗を活用した販売活動、生徒が主体となって制作した「むらやまマスター検定」などの取組を通して、地域資源を生かした学習活動が体系的に展開された。これにより、生徒が地域の産業や文化を理解し、地域と協働しながら課題に向き合う姿勢が育成されるなど、職業教育の成果が具体的な学習行動として表れていた。これらの取組は、生徒の主体性や実践力の向上にとどまらず、学校と地域との関係性を深化させる効果も確認されており、県内の他校への波及可能性という点においても意義のある成果を上げている。

・県内の専門高校全校での取組について、産業界、行政、学校がうまく連動している。

・MH事業により長期的で継続的な取組によって、生徒が学びの意義を理解し、進路の具体化、目標志向の喚起につながっているなど、専門学科としての価値を見出すことができた。

2. 今後の課題と考えられること

・これまでに培ったマイスター・ハイスクール普及促進事業における経験、ノウハウを今後のネクストハイスクール構想に活かしていくためには、産学連携の更なる充実が求められる。具体的には、こうした事業によって生徒にどのような力がついたのか、あるいはどのような力が伸びなかったのかを定量的に把握し、その対応策を産学連携のプラットフォームで協議、実践し、更にコーディネーターを活用した伴走支援による横展開を進めていく必要がある。その過程で普通科を含めた学科間、あるいは学校間の連携を更に強化していくことも重要になってくると史料される。

・本取組を通して、各学科の特性を生かした学びが着実に進められてきた一方で、今後は、学科ごとの取組を生かしながら、他学科との学びをつなぐ工夫があると、より学習効果が高まると考えられる。学科の枠を越えて産業や職業を捉える機会を設けることで、生徒が幅広い視点から産業の在り方を理解できるようになることが期待される。また、生徒がそれぞれの学科で学ぶ業界や分野について共有し合う学習活動を取り入れることで、互いの学びを理解し、産業や職業のつながりをより立体的に捉えることができるようになると考えられる。こうした学びは、将来の進路やキャリアを考える上でも有意義なものとなる。さらに、「やまがた教育パートナーズ」などの新たな取組については、今後も継続的に活用しながら、各校や各学科の学びにどのように位置付けていくかを丁寧に検討していくことが望まれる。取組の成果を共有し合い、学校や学科のつながりを深めていくことで、より充実した学習環境の形成につながっていくと考えられる。